

## 令和8年度 地域連携アクティブスクールの入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 39

千葉県立行徳高等学校 全日制の課程 普通科

### 1 期待する生徒

自立した社会人になるために、本校の教育方針を理解し、人物に優れ、基本的な学力を有し、校則やルール・マナー等を遵守して意欲的に学校生活を送る強い意志があり、次のア～ウのいずれかの要件をそなえる生徒

- ア 自らの進路実現に対する意識が高く、自ら学び、考え、行動する意欲が高いこと
- イ 部活動において優れた資質を有し、入学後も継続して当該部活動に熱心に取り組む強い意志があること
- ウ 生徒会活動、学校行事、学級活動、ボランティア活動等に継続的に参画した経験を有し、入学後も積極的に参加する強い意志があること

### 2 選抜の資料

(1) 学力検査	3教科（国語・数学・英語）の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 検査	学校が定めた次の検査の結果
ア 作文	字数：301字以上400字以内 検査時間50分
イ 面接	受検者1名・評価者2名の個人面接 検査時間：1名6分程度

### 3 評価項目及び評価基準

#### (1) 学力検査 [300点満点]

評価項目	評価基準
ア 3教科の得点合計	3教科（各教科100点満点）の合計300点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

## (2) 調査書 [185点満点]

アの数値に、イについて加点（上限50点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値で評価する。 評定1又は未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 特別活動の記録 部活動等の記録 特記事項	学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動及びその他の活動で特に積極的に取り組んだと認められる記述については加点（上限50点）する。

## (3) 検査 [200点満点]

### ①作文 [50点満点]

3名の評価者が、次の2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、アはa（過不足がない）・b（過不足がある）・c（大きく過不足がある）・d（記述がない）の4段階で、イはa（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）・d（記述がない）の4段階で評価する。

3名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ（aaa～ddd）で得点化する。ただし、2つの評価項目で、ともに評価が（ccc）または（ddd）である場合は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 字数	指定された字数に対して過不足がない。
イ 内容	与えられたテーマに対して内容が適切である。

### ②面接 [150点満点]

2名の評価者が、次の4つの評価項目ごと、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

2名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ（aaa～ccc）で得点化する。ただし、2つ以上の評価項目で、（ccc）の評価がある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 関心・意欲	本校教育への興味、関心を持っている。 学習や特別活動等、学校生活に対する意欲がある。
イ 目標・志望動機	高校生活に対する目標・意識がはっきりしている。 将来の希望や志望動機をしっかりと持っている。
ウ 態度・協調性	受け答えなどの態度が良好である。 友人を大切にし、協力して共同生活する気持ちを持っている。
エ 姿勢・身だしなみ	面接検査に適した姿勢で臨めている。 頭髪・服装などの身だしなみがきちんとしている。

## 4 選抜方法

### (1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「検査(作文・面接)の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、原則として、募集人員までを入学許可候補者とする。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の得点	調査書の得点		検査の得点		総得点
	評定	加点	作文	面接	
300点	135点	50点	50点	150点	685点

### (2) その他

入学許可候補者とした者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

## 5 その他

過年度卒業者については、検査終了後、別途、個人面談を行う。

令和8年度 地域連携アクティブスクールの入学者選抜の第2次募集選抜・評価方法

学校番号 39

千葉県立行徳高等学校 全日制の課程 普通科

1 選抜の資料

(1) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(2) 面接	受検者1名・評価者3名の個人面接 検査時間：1人10分程度
(3) 作文	字数：301字以上400字以内 検査時間50分

2 評価項目及び評価基準

(1) 調査書〔185点満点〕

アの数値に、イについて加点（上限50点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値で評価する。 評定1又は未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 特別活動の記録 部活動等の記録 特記事項	学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動及びその他の活動で特に積極的に取り組んだと認められる記述については加点（上限50点）する。

(2) 面接〔100点満点〕

3名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

3名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ（a a a～c c c）で得点化する。ただし、2つ以上の評価項目で、cを2つ含む評価の組合せがある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 関心・意欲	本校教育への興味、関心を持っている。 学習や特別活動等、学校生活に対する意欲がある。
イ 目標・志望動機	高校生活に対する目標・意識がはっきりしている。 将来の希望や志望動機をしっかりと持っている。
ウ 態度・協調性	受け答えなどの態度が良好である。 友人を大切にし、協力して共同生活する気持ちを持っている。
エ 姿勢・身だしなみ	面接検査に適した姿勢で臨めている。 頭髪・服装などの身だしなみがきちんとしている。

### (3) 作文 [50点満点]

3名の評価者が、次の2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、アはa（過不足がない）・b（過不足がある）・c（大きく過不足がある）・d（記述がない）の4段階で、イはa（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）・d（記述がない）の4段階で評価する。

3名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ（a a a～d d d）で得点化する。ただし、2つの評価項目で、ともに評価が（c c c）または（d d d）である場合は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 字数	指定された字数に対して過不足がない。
イ 内容	与えられたテーマに対して内容が適切である。

## 3 選抜方法

### (1) 選抜の方法

「調査書の得点」、「面接の得点」及び「作文の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、原則として、第2次募集の募集人員までを入学許可候補者とする。

〈総得点の満点の内訳〉

調査書の得点		面接の得点	作文の得点	総得点
評定	加点			
135点	50点	100点	50点	335点

### (2) その他

入学許可候補者とした者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

## 4 その他

過年度卒業生については、検査終了後、別途、個人面談を行う。